

【氏名】桑木野 幸司

【所属大学院】（助成決定時）東京大学大学院工学系研究科建築学専攻

【研究題目】

初期近代西欧の建築・庭園空間における百科全書的知識の表象と記憶術的空間構成の原理

【研究の目的】

初期近代の西欧社会は、新大陸の発見、自然科学の進展、宗教革命などの諸要因により、旧来の知的枠組みが崩壊し、それらに代わる様々な知的モデルが提出され、知を表象する方法や媒体も一挙に多彩化した時期である。これら新旧の多様な知識を分類整理し、統合的に表象しようとする当時の「百科全書的」思潮の中で、とりわけ「記憶術」とよばれる、仮想の建築空間を活用した情報編集法が、広く視覚芸術に影響を与えていたことが、近年明らかになりつつある。しかし、それら未曾有の「知的変革」と、ほぼ同時代に知的芸術へと変貌をとげた「建築学」との関連に関しては、まだ十分に解明されていない。

そこで本研究は、記憶術と建築空間造形との関係に光を当て、建築的記憶術を活用した百科全書的知識の表象が、実空間にどのように適用されたのかを解明する。変革期にあった初期近代の各種学問・知識が、建築空間の中で記憶術を介してどのように表象され、またそれらの知の表象法が逆に、実空間の構成にどのような影響を与えたのかを探ること、建築と知の間の、創造的な相互影響関係の解明が期待される。

【研究の内容・方法】

本研究は、以下の二点の主題から進めてゆく。

1. 記憶術・知識分類・蒐集理論・エンブレムにおける知識の表象と建築モデルの分析

まず、知識や情報の分類・統合を目指す初期近代の「記憶術」、およびそこから強い影響を受けていた蒐集分類理論、百科全書主義、エンブレム、コモンプレイスといった各種の知的方法論が、いかにして建築・庭園の理論および空間を思考モデルとして活用していたのかを探る。

具体的には以下のテキストを重点的に分析してゆく：

(1). Samuel von Quiccheberg, *Inscriptio vel tituli amplissimi theatri*, München, 1565.

(S. クヴィヒェベルク 『広壮なる劇場の銘あるいは標題…』)

(2). Cosma Rosselli, *Thesaurus artificiosae memoriae*, Venezia, 1579. (C. ロッセッリウス 『人工記憶の宝庫』)

ついで、記憶術を基盤とした上述の各種知的方法論を、同様の観点から分析してゆく。これらの各種知的方法論に見られる建築モデルの観念を分類し、その発展・影響関係を整理した上で、知識や情報を効果的・秩序的に表象配置するために、どのような仕方で建築

空間が利用され、また修正を加えられたのかを分析し、その理論や特徴を別括する。

2. 建築理論および実空間への記憶術・蒐集分類理論の影響

建築学の側が同時代の記憶術・蒐集理論から受けた影響について、建築・造園理論ならびに実空間（作品構想）の両側面から考察する。

理論面では、記憶劇場の創案者 G. カミッロの後継者であった建築理論家 S. セルリオを中心に、アルベルティ、F. コロンナ、D. バルバロ、V. スカモッツィ、B. パリシーらの建築・造園理論書を分析し、それらが説く空間構成理論の内に、記憶術理論の反映ならびにその変容をさぐる。また庭園論の分野では、Agostino Del Riccio, *Agricoltura sperimentale*, Firenze, 1595-97. (A. デル・リッチョ『経験的農業論』) を、記憶術とエンブレムの観点から、重点的に分析する。

ついで上記の理論考察をもとに、初期近代の各種建築を対象に、その空間構成や造形原理にみられる記憶術理論からの影響を具体的に探る。記憶術が知の編集・体系化をめざす知的方法論であったことを念頭に、分析対象としては知識の分類・展覧を主機能とする建築を選ぶ。具体的には、植物園、装飾庭園、博物蒐集室、工房・実験室、解剖劇場、アカデミーの研究施設等である。

【結論・考察】

西欧初のミュージアム理論書、Samuel von Quiccheberg, *Inscriptio vel tituli amplissimi theatri*, München, 1565 の分析によって、16 世紀当時のミュージアム空間が、記憶術、百科全書主義、ラムス主義といった知的潮流から大きく影響をうけていたことがあきらかになった（研究成果は、2006 年科学史学会全国大会（東洋大学）のシンポジウム（5 月 27 日）にて、発表した）。

また、Agostino Del Riccio, *Agricoltura sperimentale*, Firenze, 1595-97 の分析からは、16 世紀の庭園空間が、記憶術にもとづいて構成されていた点、そして庭園内に百科全書的な知識を表象するさいに、エンブレムという文学＝芸術的なジャンルが、大きく影響を与えていた点を、明らかにした（研究成果は、論集『マイクロコスモス』（月曜社、2007 年刊行予定）にて発表した。同テーマを発展させた論文を、イタリアの Einaudi 社から刊行される、Agostino Del Riccio 著作集の解題論文として、イタリア語で発表する予定である）。

本研究によって、建築形状の外面的な変遷に拠った従来の建築史研究では解明が難しかった、空間のもつ知性的特質を別括することができた。記憶術、ならびにそれと密接に関連した百科全書主義・博物蒐集分類における知識の表象方法が、空間造形に大きな影響を与えていた点は、建築史の世界では本研究がはじめて本格的に明らかにしたものである。